



QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮

第 13 号 since2005.6.1

本年7月に九州北部を襲った未曾有の豪雨により、被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。皆様が、1日も早く普段の生活に戻られますことをお祈りいたします。

去る8月23日に、本ネットワークの会員である、(株)トライ・ウッド(大分県日田市)が、「J-VERクレジット付高性能林業機械発表会」を開催致しました。発表された、J-VERクレジット付高性能林業機械は、まず森林を管理する者自らが、森林施業の現場での二酸化炭素を削減・オフセット(相殺)する活動を行い、そのクレジットの販売により得た代金で、地球温暖化防止のための森林管理及び間伐の推進に還元・循環させる新たな取組です。(株)トライ・ウッド保有のクレジットはもとより、環境省のカーボン・オフセット制度であるJ-VER制度に本会員として一緒に取り組んでいる、熊本県小国町・宮崎県諸塚村が保有しているクレジットも使用されます。この取組が実を結び、益々の本会員同士の交流活動が活発になりますとともに、林業地域の活性化と環境問題に貢献されることを多いに期待いたしています。

これまで本ネットワークでは、九州各地で年2回「九州森林フォーラム」を開催してきましたが、今回新しい試みとして、総会の時期に合わせて、会員の方の活動実態の報告・会員同士の交流・今後のNPOの在り方等を考える場として、「会員向けプレミアム研修会」を10月に福岡県八女市黒木町で計画しています。会員各位の多数の参加をお待ちしています。

暦の上では秋を迎えたとはいえ、まだまだ暑い日々が続いていますので、会員の皆様におかれましては、体調管理に努め、お体をご自愛ください。

発行日 2012.xx.xx

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分・上津江オフィス

【目次】

第17回九州森林フォーラム
の報告 P.2~P.3

QFN 通信会員だより 1 九州
北部豪雨をうけて P.4~P.5

QFN 通信会員だより 2 第
17回九州森林フォーラム in
鹿児島を終えて P.6

九州森林ネットワーク総会
&研修会のお知らせ P.7

無料映画会のご案内 P.8



写真は、J-VERクレジット付高性能林業機械
発表会の様子



第17回九州森林フォーラム IN 鹿児島 の報告 平成24年5月18日～19日

震災を超えて 第二弾「パッシブデザインの可能性」

3・11震災後、それぞれの個人が、どのようなビジョン、価値観を持ち、生活していくのか考え始めています。日々の日常を豊かで楽しいモノとしたい。家族や地域の人達とのつながりが大切であるということも、分かってきました。ネット環境も使いながら、家族やコミュニティーの見直し、再構築が始まっています。それに伴って、家庭での日常生活を大切に考える人たちが増えてきました。今、その舞台として住まいのあり方が問われています。

フォーラムでは、身の周りにある豊かで優しい自然エネルギーを積極的に利用して、四季を通じて心地よく暮らせる住まい「パッシブデザイン」の家に焦点を当てて作り手と住まい手が、

「パッシブデザイン住宅の事例」を通して、震災後のエネルギー問題を踏まえながら、これから造る住まいや生活について議論してきました。

第1部 5月18日（金）九州森林フォーラム in 鹿児島 基調講演

住まいと環境社 代表 野池 政宏（のいけ まさひろ）氏により基調講演が行われました。



第2部 5月18日（金）九州森林フォーラム in 鹿児島 事例報告

空設計工房 江藤 真理子（えとう まりこ）氏 住まい手 堤 健一郎（つつみ けんいちろう）氏 及び 建築工房 自然木 村田義弘（むらた よしひろ）氏 住まい手 田中 利行（たなか としゆき）氏に、

「パッシブデザイン住宅」の事例報告をして頂きました。



第3部 5月18日（金） 九州森林フォーラム in 鹿児島 パネルディスカッション

野池 政宏 氏(住まいと環境社)のコーディネートで、パネリストは、江藤 眞理子 氏(空設計工房)、堤 健一郎 氏(住まい手)、村田 義弘 氏(建築工房 自然木)、田中 利行 氏(住まい手)のメンバーでパネルディスカッションを行いました。



第4部 5月19日（土） 九州森林フォーラム in 鹿児島 現地見学会

「パッシブデザイン住宅」 始良の家 を見学しました。



■ 参加者

フォーラム参加者 95名

■ 参加者からのコメント（抜粋）

- ・よかった。またやるべき(建築関係 50代)
- ・おもしろい話を伺って楽しかったです。「パッシブ」と言葉は新しいですが、通風採光と、当たり前の事をきちんとデザインしてやるのが大事だと思いました。古民家など昔の家から多く学ぶ部分があると思います。今後はもう少し技術的な部分まで掘り下げて、フォーラムを開いていただけるとありがたいです。植栽の話とかおもしろいかもです。(建築 30代)
- ・リフォームのパッシブデザインもよろしく。(森林ボランティア 50代)
- ・省エネ、省 CO2 等、環境配慮型住宅の必要性や需要性を改めて感じることができました。CFP や J-VER、CO2 数値化など。(工務店 50代)
- ・お施主様の正直なお話が聞けてよかった。今回のテーマに従い、良い話ばかりでない話が good。将来にはお施主様が一言「最高です！」の語らいになればと思います。(工務店 40代)

QFN 通信会員便り 1

九州北部豪雨をうけて 山村塾 小森耕太

7月14日の豪雨災害以降、本当に多くの方々に応援いただいております。感謝、感謝の毎日です。8月25日に仮設住宅の入居がスタートし、山村塾が事務所として、また活動拠点としてお借りしている元小学校校舎を活用した「笠原東交流センター えがおの森」は避難所としての役目を終えました。おかげさまで復興へ向けて少しずつ前に進んでいます。

私たちが活動する八女市黒木町笠原地区（372世帯、1,163人）は谷あい広がる棚田や茶畑、山々がとても美しいところでしたが、今回の災害によりあちこちの道路が寸断され、一時は孤立状態となり、農地や家屋に甚大な被害がもたらされました。聞くところによると黒木町内で約3,300箇所の農地が被害を受けており、そのほとんどが笠原地区だそうです。今後、笠原を離れる人、農業をあきらめる人が多く出てくるのではないかと心配しています。

しかし、不運の中にも幸運なことがありました。元小学校校舎が交流施設として整備、活用されていたこと。入浴や調理の設備が整っていたほか、山村塾のボランティアが滞在中で食料品ストックや布団60組を備えていたため、一時、80～150人が緊急避難をしたときも十分対応ができたことなどです。また、これまでに関わりの無かった黒木町内、八女市内の多くの若者が、災害ボランティアに続けて参加してくれたことは大きな喜びでした。

今回えがおの森を中心に、避難者や災害ボランティアの受け入れがスムーズにできたのは、合宿スタイルの里山保全活動や都市農山村交流に取り組んできたこれまでの経験やノウハウ、人脈によることが大きいと考えています。梅雨が明けかかった7月21日に災害ボランティアの募集を開始し、翌日の7月22日には、遠くは宮崎から地元八女市までの22人のボランティアが集いました。ボランティアが来てくれたことで、何をどうしたら良いか分からなかった地元の方々も、次第に前を向いて動き始め、ボランティアへの支援要請は日に日に増えていきました。

山間部は災害により道路がダメージを受けることも多く、行政を含む外部との連絡が途絶えるリスクを抱えています。しかし地域に根ざしたNPOなどの活動団体があることで、非常事態が起きた際の外部の協力者との連携やコミュニティーの支援ができると実感しています。そして今も尚、たくさんのボランティアや支援の輪が広がっており、それらをつなぐことが地域の復興支援になると確信しています。

10月5日～6日黒木町での九州森林ネットワーク研修会では、現地の被災状況や山村塾の復興支援活動を通じて、災害に直面したときの地域のあり方、これからの山村のあり方などを皆さんと一緒に考えたいと思っております。皆さんのお越しをお待ちしております！

※山村塾は1994年に農家2軒が中心となって設立した環境保全ボランティア団体で、都市と農山村の連携による棚田保全、森林保全などの活動に取り組んできました。7月14日の豪雨被害以降は、避難所えがおの森のサポート（7月14日～8月28日）、7月22日から災害ボランティアの募集と運営、地域ニーズの調査を行っています。

HP <http://www.h3.dion.ne.jp/~sannsonn/>

黒木町笠原の近況 <https://facebook.com/kouta.komori>



7月14日の様子。棚田がナイアガラの滝のように



森林内の土砂崩れ。 表層崩壊の様子



山全体が土砂崩れ。深層崩壊の様子



雨が止んだ後の道路には大量の土砂、石



7月22日災害ボランティア初日



災害ボランティア活動の様子。棚田への水路を復旧中。

QFN 通信会員便り 2

第 17 回九州森林フォーラム in 鹿児島を終えて

建築工房自然木 村田義弘

早いもので、5月に開催された鹿児島フォーラムから4カ月が経とうとしています。今年の梅雨は、強い雨が長く降り続き、7月14日には九州北部豪雨がありました。1日も早い復旧をお祈りいたします。

この間、国のエネルギー政策についての意見聴取会やパブリックコメントによるヒアリングが行われ、期間の考え方は、まだ議論されるようですが、原発を無くす方向で、これからの政策がまとめられようとしています。今後、ますます、家庭におけるエネルギー消費についても考えなければならない時代になっていくでしょう。

国の住宅施策でも、「木造住宅ブランド化事業」や「ゼロエネ住宅」等の補助事業で、省エネ性能を持った住宅に誘導していこうとしています。リフォームについても、同じような施策が実施され、住宅部門全体での省エネ化が進められるようです。

一方で、フォーラムの中でもお話しましたが、このネットワークが立ち上がった頃の家づくりは、「高气密・高断熱は悪。そのような家を造るから健康を害するんだ。」という考え方をしていたと思います。自分自身がそうでしたし、自然派・健康志向の多くの設計者工務店が同じような考え方で家づくりを進めていました。自然派の工務店が、ネットワークを組む山の方々も「高气密・高断熱は悪」という考えの人が多くいました。そして現在でも、多くの方が同じ考えでいるようです。

10年前の高断熱住宅と今回紹介したパッシブデザインの住宅は、断熱性能を確保するという点は、同じですが、細かな仕様や考え方が全く違うモノです。窓周りの性能がアップしてきたことで、断熱性能を確保しながら開放的な家になっています。その開口部にさらに、十分な庇を付け、外付のブラインドやヨシズ、ミドリのカーテン等を設けます。上着を脱いだり着たりするように、天気や風の向きに合わせて「開けたり閉めたり」。パッシブデザインの住宅は、衣服の延長です。

「高气密高断熱の家」は、出来るだけ開口部をちいさくして断熱性能をあげ、閉じたボックスを、空調機を使って、温湿度を一定に保っていました。そのような家が気持ち良いとは思えないですね。

風の気持ちの良い時は、窓を開け、陽射しの気持ちの良い日は、太陽熱をいっぱい取り込みます。住まい手の感性で、自然を楽しみながら、暮らす。それが、パッシブデザインの家なんです。

フォーラムでも見学頂いた「始良の家」で、8月上旬午後「パッシブデザイン 真夏の見学会」を行いました。外気温が34℃～35℃、外気との温度差4℃程度、扇風機が回っていればクーラー無しでも暮らせる環境です。30名ほどの方に体感頂きました。我慢はしなくていいんです。クーラーをつけたければ付けければいいんです。リビングには、クーラーはありませんが、リビングの隣の子供部屋には、これまで使っていた、小さなクーラーがあるので、必要な時には、それを動かせばリビングも含めて充分涼しくなります。冬場は、薪ストーブを楽しみます。冬の温湿度の実測も楽しみです。



8月上旬 パッシブデザイン 真夏の見学会の様子

NPO 法人九州森林ネットワーク会員向け第1回プレミアム研修会のお知らせ

■日程：平成24年10月5日（金）～10月6日（土）

■集合：10月5日（金）13:00 福岡県八女市黒木町支所 集合

※お車は移動の都合上、原則としてワゴン車等の乗り合わせとなります。

※移動の都合上、緊急の場合を除いて、途中参加や早退はできませんのでご容赦下さい。

■会場：八女市黒木町 農林業体験交流施設 『四季菜館』 Tel:0943-42-2722

■テーマ：「潜む地域の危機に私たちができること」

～ 日常化する大規模災害に対応する地域力とは ～

NPO 法人九州森林ネットワークでは、今年から総会の時期に会員の皆様の活動実態の相互理解を図るとともに、今後の九州森林ネットワークの在り方を考える場として、会員向けプレミアム研修会を実施する事になりました。第1回目は、今年7月に九州北部豪雨という大変な災害がありました福岡県八女市黒木町で実施します。当NPO法人 小森耕太理事(黒木町「山村塾」事務局長)協力の下、現地視察を行い、災害に直面した場合の地域の在り方・課題を提起頂くほか、頻発する自然災害に対応するための地域力の醸成について考えていきます。会員の皆様のご参加を宜しく願います。

■参加費：8,000 円/人（1泊3食）

※ 宿泊は雑魚寝。食事は共同炊飯でお願いします。

■持ち物：寝間着、洗面セット、着替え等が必要です。動きやすい服装でご参加ください。

■対象：九州森林ネットワーク会員

■定員等：先着30名様まで 9月27日（木）申し込み〆切

※ 完全予約制ですので、ご参加される方のお名前・住所・電話番号を下記までお知らせ下さい。

■主催：NPO 法人 九州森林ネットワーク

■プログラム(予定)：

10/5(金) 13:00	黒木支所発 (13:30 黒木町笠原着)
13:30～16:00	現地調査
16:00～18:00	報告「大規模災害に直面して解ったこと(仮題)」山村塾事務局長 小森耕太氏他
18:00～19:00	休憩 入浴
19:00～	交流会 ～会員と黒木町支所および笠原地区の皆様
10/6(土) 8:30	NPO 九州森林ネットワーク 総会
09:00～14:00	討論会「大規模災害に対応する地域力の醸成について(仮題)」 ※ 途中、昼食をはさみます。
14:00	終了(14:30 黒木支所着 (解散)) ☆ 黒木支所到着後、ワンガリ・マータイさんのドキュメンタリー映画 「TALKING ROOT」を無料上映致します。ご希望の方は、事務局まで ご連絡下さい。

■問い合わせ先：NPO 法人九州森林ネットワーク事務局（宮崎県諸塚村 企画課内）

TEL:0982-65-1116 FAX:0982-65-0032

Mail:k.matsumura@morotsuka.jp

無料映画会のご案内

「MOTTAINAI!キャンペーン」提唱者

ワンガリ・マータイさんのドキュメンタリー映画

「TAKING ROOT」 上映会

リサ・マートン監督

NPO 法人九州森林ネットワーク特別企画

上映協力：毎日新聞社内 MOTTAINAI キャンペーン事務局



日時：10月6日（土） 14:00～

会場：八女市 * * * * *

会費：無料

会場地図

九州北部豪雨において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

NPO 法人九州森林ネットワークでは、MOTTAINAI（もったいない）で有名なワンガリ・マータイさんの生涯を描いたドキュメンタリー映画の上映を企画しました。タイトルのテーキング・ルートとは「根付く」という意味です。

マータイさんは、「グリーンベルト運動」を通じた植樹・環境保護活動、女性の地位向上、貧困撲滅、独裁政権の民主化などに取り組み、2004年に環境分野で初、アフリカ人女性として初めてノーベル平和賞を受賞しています。昨年9月に死去されましたが、その3週間前に収録された、東日本大震災で被災した日本人に向けた熱い励ましの言葉も映画の前に収録されています。真の勇気とは何か、女性として、人間として真に生きるとはどういうことなのか、環境を大切にすることがなぜ必要なのか、などさまざまな問題を投げかけている作品です。

是非、多くの方々に観ていただきたく、案内申し上げます。



問い合わせ先：主催：NPO 法人九州森林ネットワーク事務局（諸塚村役場企画課内：松村）

TEL:0982-65-1116 Mail: k.matsumura@morotsuka.jp

共催：黒木町山村塾事務局（小森）

TEL:0943-42-4300 Mail: sannsonn@f2.dion.ne.jp